

# 学部・研究科等の現況調査表

教 育

令和2年7月

帯 広 畜 産 大 学



## 目 次

- |           |       |
|-----------|-------|
| 1. 畜産学部   | 1 - 1 |
| 2. 畜産学研究科 | 2 - 1 |



# 1. 畜産学部

(1) 畜産学部の教育目的と特徴	1-2
(2) 「教育の水準」の分析	1-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	1-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	1-10
【参考】データ分析集 指標一覧	1-13

## (1) 畜産学部の教育目的と特徴

帯広畜産大学の基本的な目標は、「『日本の食料基地』として食料の生産から消費まで一貫した環境が揃う北海道十勝地域において、生命、食料、環境をテーマに『農学』『畜産科学』『獣医学』に関する教育研究を推進し、知の創造と実践によって実学の学風を発展させ、『食を支え、暮らしを守る』人材の育成を通じて地域及び国際社会に貢献する」ことである。この基本的な目標の下、第3期中期目標期間においては、我が国唯一の国立農学系単科大学として、「グローバル社会の要請に即した農学系人材を育成すること」を目指し、以下の取組を重点的に推進した。

- ・ 欧米水準の教育課程の構築
- ・ 世界トップレベル大学等との国際共同研究及び教育交流
- ・ 国際安全衛生基準適応の実習環境による人材育成
- ・ 企業等社会のニーズに即した共同研究・人材育成

畜産学部では、上記の基本的な目標の下、「農場から食卓まで」の幅広い視点で現場に適用できる知識と実践力を有するとともに、地球規模課題解決等の国際的視野を備えたグローバル人材の育成を目的として、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー及びアセスメント・ポリシーを体系的に定めている。

また、上記の目標・目的の実現のため、教育研究活動等の状況について、定めたポリシーに基づき自己点検及び評価を行い、その評価結果を改善に繋げることで、恒常的かつ継続的に教育の質の保証及び向上に努めている。

教育の特徴は、「基盤教育」、「共通教育」、「展開教育」の3区分によって編成されるアドバンス制教育システムである。下級学年では大学で学ぶための基礎となる幅広い知識や技術、農畜産全般の基礎知識を中心とした学習（基礎教育・共通教育）により専門知識への意欲と方向性を育成し、上級学年に進むにつれて獣医・農畜産の特定分野の深い専門知識・技術の学習（展開教育）へと前進（アドバンス）していく教育システムである。展開教育においては、学生の目的意識や進路に応じた現場密着型の専門教育を展開し、学生はそれぞれの学ぶ専門分野を自主的に選択し、専門教育コースである「ユニット」に所属する。ユニットのカリキュラムは、学生のニーズや社会情勢に応じて柔軟に変更・改善することとしている。

## (2) 「教育の水準」の分析

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

#### <必須記載項目1 学位授与方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 0501-i1-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目2 教育課程方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 0501-i2-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料  
（別添資料 0501-i3-1～5）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料  
（別添資料 0501-i3-6～7）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 国際的視野を涵養するとともに卒後の社会実践力を育成するため、分野横断的な学際教育プログラムとして新たに「国際教育プログラム」、「大学院進学プログラム」、「動物医科学コース進学プログラム」の3つのプログラムを開発し、平成30年度入学生から導入した。[3.1]（別添資料 0501-i3-8）

<必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料  
(別添資料 0501-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料  
(別添資料 0501-i4-2)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数  
(別添資料 0501-i4-3)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料  
(別添資料 0501-i4-4)
- ・ 指標番号 5、9～10 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 「キャンパスマスタープラン 2017」に基づき、附属図書館機能改善工事を平成 30 年度に着手した。改善工事に際しては、オンライン調査及び対面調査を通じて 学生の意見聴取を実施して整備計画に活用するとともに、旧来の積載書架を集密書架に転換することで有効スペースを生み出し、ラーニングコモنزの配置等により、アクティブ・ラーニング機能の充実を図った。 工事は令和元年 7 月に完了し、同年 9 月～翌年 1 月期の利用者は、改修工事着手前(平成 29 年度)よりも 6.5% 増の 2,489 名増加した。 [4.1] (別添資料 0501-i4-5)
- 独立行政法人国際協力機構 (JICA) との連携事業として実施する、帯広-JICA 協力隊連携事業を活用して獣医・農畜産分野における国際協力経験機会を通じた グローバル人材を育成するため、1 か月程度の短期ボランティアに平成 28 年度から平成 31 年度までに 26 名の学生を派遣した。 当該派遣事業については授業科目「海外フィールドワーク」として単位取得が可能な体制としている。 [4.1] (別添資料 0501-i4-6)
- 遠隔講義システムを活用した北海道地区国立大学間の教養教育連携を継続的に実施しており、本学で開講されていない外国語科目等が提供され基盤教育科目を充実した結果、遠隔授業の履修者が増加した。 [4.3] (別添資料 0501-i4-7)
- 平成 29 年度に大学ポータルサイトに 学修ポートフォリオを導入し、クラス担任、ユニット担任、指導教員が、単位取得状況、出席率等の学生情報を共有できるようにし、学習指導に活用した。 また、同ポートフォリオにおいて学生自身が目標を設定し、自己評価を記入したものに対して、担当教員が評価コメントを付



して返却する体制を整備し、より一層きめ細やかな学生指導が可能となった。

[4.7] (別添資料 0501-i4-8)

- 平成 28 年度に農学系大学としては国内で初めて、原虫病研究センターと動物食品検査診断センターが試験所能力を国際的に証明する国際標準規格 ISO17025 を取得した。畜産フィールド科学センターでは、平成 28 年度に「搾乳施設」の国際安全衛生認証 ISO22000 を新たに取得し、さらに平成 31 年度は「牛舎」の ISO22000 認証を取得した。また、平成 26 年 3 月に取得済みの「乳製品工場」の国際安全衛生認証 (FSSC2200) は、毎年度に内部監査を実施するとともに平成 29 年度に審査更新を実施した。国際認証取得施設を 1 施設から 5 施設に大幅に増加させたことで、国際安全衛生基準に準拠した教育研究施設による実習機能を強化した。 [4.8] (別添資料 0501-i4-9)

#### <必須記載項目 5 履修指導、支援>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料 (別添資料 0501-i5-1)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料 (別添資料 0501-i5-2)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料 (別添資料 0501-i5-3)
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料 (別添資料 0501-i5-4)

##### 【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成 28 年度から毎年度、関連する FD 研修会やワークショップを開催した。平成 29 年度には特別修学支援室を設置し、特別な支援を要する学生への支援体制を強化した。障がいの種類に応じた教育方法として、集団での受講が困難な学生に対する夜間補講やビデオ講義の活用、定期試験の別室受験やレポート提出への変更等の方策を実施した。また、新規の施設整備は、ユニバーサルデザイン整備計画に基づき、身障者対応多目的トイレ、点字ブロック、手すり等を設置する方針とした。平成 31 年度には、増加する女子学生の特別修学支援申請に対応するため女性カウンセラーの配置時間を週 1 回から 2 回へと倍増させた。 [5.1] (別添資料 0501-i5-5)

## 帯広畜産大学畜産学部 教育活動の状況

- 就職支援室と教育支援室の連携により、必修のキャリア教育科目に社会貢献・ボランティア活動に関する講義や、インターンシップ報告会を導入することでインターンシップへの参加を促した。インターンシップに関するアンケート結果を検証し、履修登録方法の変更等インターンシップに参加しやすい環境に改善した。平成 28～30 年度卒業生アンケートにおいては、86.9%の卒業生が現在の進路は希望した進路であると回答し、84.4%が進路に満足していると回答しており、キャリア形成と教育内容が合致していることが確認できる。 [5.3] (別添資料 0501-i5-6)
- 獣医学教育において、動物福祉の観点から実習における生体の利用数を減らすことに対応するためにスキルラボを設置し、外科手術等の器材や生体モデル等を整備し、学生の自発的な学習環境を充実させた。 [5.0] (別添資料 0501-i5-7)

### <必須記載項目 6 成績評価>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準 (別添資料 0501-i6-1)
- ・ 成績評価の分布表 (別添資料 0501-i6-2)
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (別添資料 0501-i6-3～6)

#### 【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成 29 年度から学生の学習成果を適切に測定・把握する取組として、学修到達度調査を実施し、その結果を分析した。平成 31 年度には IR コンソーシアム会員大学と連携して学習到達度調査を改良し、令和 2 年度入学生からジェネリックスキルと専門知識の両面から学習成果を可視化する取組を開始することとした。  
[6.1] (別添資料 0501-i6-7)

### <必須記載項目 7 卒業（修了）判定>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 (別添資料 0501-i7-1)
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料  
(別添資料 0501-i7-2～4)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 特になし

<必須記載項目8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 0501-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 0501-i8-2）
- ・ 指標番号1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成31年度入学者選抜試験後期日程の個別学力検査において、アドミッション・ポリシーにより合致した学生を受け入れるために、センター試験の成績と調査書の内容を総合して選抜する従来の方法から、新たに小論文及び面接を加えて総合的に評価する方法に変更して実施した。その結果、当該試験日程畜産科学課程の入学者辞退率が、平成30年度の52.5%から平成31年度の8%に大幅に改善された [8.2]（別添資料 0501-i8-3）

<選択記載項目A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数  
（別添資料 0501-i4-3）（再掲）
- ・ 指標番号3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成28年度から平成31年度の4年間で、コーネル大学及びウィスコンシン大学から延べ58名の外国人教員を招聘し、食品科学分野、予防獣医学分野等の特別講義・ワークショップを39回実施し、獣医・農畜産融合の教育研究交流を推進した。また、海外教育プログラムの導入等の大規模な交流により教育課程を充実し、大学のグローバル化を飛躍的に進展させた。[A.1]（別添資料 0501-iA-1）
- 平成30年度からウィスコンシン大学と共同でサマージョイントプログラムを実施し、これまで本学学部生25名が参加した。ウィスコンシン大学の大学生と共

## 帯広畜産大学畜産学部 教育活動の状況

にグループディスカッションやプレゼンテーション、フィールドワークを実施し、北海道の自然、食の生産から加工までの学びを深め、異文化適応能力や英語によるコミュニケーション能力の育成を図った。参加者アンケートにより、回答した学生のうち、9割の学生が「英語によるディスカッション能力」や「海外の学生とコミュニケーションする能力」が身についたと評価した。[A. 1] (別添資料 0501-iA-2)

- 平成 29 年度から TOEIC-IP テストを導入し、入学時と英語教育終了時（共同獣医学課程は 1 年次後期終了後、畜産科学課程は 2 年次前期終了後）に全学生が受験することとし、個人の英語学習成果を確認できる体制を大学が整備するとともに、大学の英語教育の質保証に向けた取組として活用することとした。（別添資料 0501-iA-3）

### <選択記載項目 B 地域連携による教育活動>

#### 【基本的な記載事項】

（特になし）

#### 【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 学生の学びや大学生活に対する動機づけの契機として、幅広い教養（リベラルアーツ）を身につけるという趣旨に加え、広く市民の方々にも開放し、地域住民と大学の交流の場を設けることを目的に、帯広市、十勝毎日新聞社、一般社団法人帯広市文化スポーツ振興財団との共催により「リベラルアーツ講演会」を開催した。平成 29 年度は小林誠氏（2008 年ノーベル物理学賞）、平成 30 年度は鈴木章氏（2010 年ノーベル化学賞）、平成 31 年度は天野浩氏（2014 年ノーベル物理学賞）を招いて講演会を実施し、毎年 1,000 名規模の参加者を集めている。 [B. 1] (別添資料 0501-iB-1)
- 帯広市との連携事業「若者が牽引するしごとづくり・まちづくりプラン推進事業」において、学生が主体となり、「文化・スポーツを通じた市民参加型の事業」、「おびひろ動物園をより魅力的にする事業」及び「まちなか活性化事業」等をこれまで 47 件実施するとともに、産業社会の要請する人材の育成に向け、地元企業のニーズを踏まえた共同研究 21 件に学部学生を参画させ、実際の製品開発等に携わった。 [B. 1] (別添資料 0501-iB-2)

<選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 双方向授業や ICT を活用した授業の増加のためにオープンクラスや FD 研修会を毎年度実施し、平成 31 年度には、特定科目でのみ実施していたオープンクラスをほぼ全ての講義科目に展開させたことで、教員間での情報共有が促進された。また、クリッカーについてもワークショップで紹介したスマートフォンやムーダルの機能を活用する手法を新たに導入したことで、前年度に 2 科目だったクリッカーを活用した授業科目数は 12 科目に増加した。ICT 活用形授業に関する学生アンケート調査において、9 割の学生がクリッカーの活用が学修を促進する上で効果的であったと回答している [C. 1] (別添資料 0501-iC-1)
- ディプロマ・ポリシーに掲げる能力・資質の修得状況等を適切に評価するため、平成 28 年度にアセスメント・ポリシーを策定するとともに、大学教育センターを中心に同ポリシーに基づき、学修ポートフォリオを活用しながら自己評価・点検を実施し、各種会議で改善策を検討する内部質保証体制を構築し、PDCA サイクルを機能させた。 [C. 2] (別添資料 0501-iC-2)
- 獣医系 4 大学 (帯広畜産大学、北海道大学、山口大学、鹿児島大学) が一致協力して、クリニカルローテーション時間数の大幅増 (4 週→12 週) 等の教育カリキュラム改善、QA (Quality Assurance) 委員会の設置等の教育の質保証体制の整備、相互利用可能な e ラーニング自学自習教材の教育コンテンツの充実及びその相互提供等により、日本の獣医学教育の質の向上に貢献し、アジアで初めてとなる「欧州獣医学教育認証の取得」を実現した。 [C. 2] (別添資料 0501-iC-3)

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### <必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 0501-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 0501-ii1-2）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）
- ・ 獣医学課程卒業者の獣医師国家試験合格率（農林水産省公表）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 第3期中期目標期間における免許・資格取得者数は、家畜人工授精師は平均 34.5 名、認定牛削蹄師は平均 15 名、食品衛生管理者及び監視員任用資格は平均 41 名となっている。[1.2]（別添資料 0501-ii1-3）
- 畜産学部所属の学生の学会等の主な受賞実績は下表「学部学生の主な受賞状況」のとおりである。獣医学課程及び畜産科学課程の学生が毎年継続的に受賞している。[1.0]

#### 【学部学生の主な受賞状況】

平成28年度	3 件	（獣医学課程 1 名、畜産科学課程 2 名）
平成29年度	2 件	（獣医学課程 1 名、畜産科学課程 1 名）
平成30年度	4 件	（共同獣医学課程 2 名、畜産科学課程 2 名）
平成31年度	6 件	（共同獣医学課程 2 名、畜産科学課程 4 名）

（出典：総務課、学生支援課）

### <必須記載項目2 就職、進学>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 主な産業別就職先は、畜産科学課程は食料品・飼料製造業（25%）、農業（13%）、農業協同組合等の複合サービス業（13%）等、農学の専門性を生かした職種が中心となっている。 獣医学課程は、動物病院等の獣医臨床に関わる技術サービス（31%）、公務員獣医師等（24%）の獣医師資格を生かした進路選択がなされており、本学の教育目標に沿った人材輩出がなされている。 [2.1]（別添資料 0501-ii2-1）

## 帯広畜産大学畜産学部 教育成果の状況

- 主な就職先については、北海道内に就職した割合は45.0%となっており、同期間に入学した北海道出身学生の割合32.9%を上回っている。第1期、第2期中期目標期間から引き続き、帯広畜産大学の特色である北海道外からの人材を流入する役割を果たしている。(第1期:就職44.6%/入学29.3%、第2期:就職57.0%/入学37.9%) [2.1] (別添資料 0501-ii2-2)

### <選択記載項目A 卒業(修了)時の学生からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料  
(別添資料 0501-iiA-1)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成28～30年度の卒業生を対象に、入学した時点と比べた能力・知識に関する5段階評定のアンケートを実施した結果、特に「専門分野や学科の知識(93.6%)」、「プレゼンテーションの能力(85.9%)」に関して、「大きく増えた」あるいは「増えた」と回答した学生の割合が高かった。[A.1] (別添資料 0501-iiA-2)

### <選択記載項目B 卒業(修了)生からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 卒業(修了)後、一定年限を経過した卒業(修了)生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料 (別添資料 0501-iiB-1)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成29年度に同窓会報紙送付時に同封しアンケートを実施した結果、カリキュラム全体等に対して「満足」、「概ね満足」と7割以上が回答した。また、現在の仕事や生活との関連性について、獣医学課程86.8%、畜産科学課程69.7%が「大いに関連がある」、「やや関連がある」と回答しており、在学時の学習経験については、特に専門教育の講義・演習について約7割以上が役立っていると回答している。(別添資料 0501-iiB-2) [B.1]

<選択記載項目 C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料  
(別添資料 0501-iiC-1)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 共同獣医学課程の第1期卒業生が就職後1年経過した平成31年4月に就職先に対してアンケート調査を実施した結果、新卒獣医師としての知識については「満足」、「やや満足」または「普通」と85%が回答した。同じく、技能については80%の就職先で「普通」以上と回答した。総合的な判断として「普通」以上と回答した就職先は95%となっている。[C.1]

(別添資料 0501-iiC-1) (再掲；該当箇所を黄色で強調)



【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※  部分の指標（指標番号 8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※  部分の指標（指標 11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。

## 2. 畜産学研究科

(1) 畜産学研究科の教育目的と特徴	2-2
(2) 「教育の水準」の分析	2-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	2-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	2-10
【参考】データ分析集 指標一覧	2-12

## (1) 畜産学研究科の教育目的と特徴

帯広畜産大学の基本的な目標は、「『日本の食料基地』として食料の生産から消費まで一貫した環境が揃う北海道十勝地域において、生命、食料、環境をテーマに『農学』『畜産科学』『獣医学』に関する教育研究を推進し、知の創造と実践によって実学の学風を発展させ、『食を支え、暮らしを守る』人材の育成を通じて地域及び国際社会に貢献する」ことである。この基本的な目標の下、第3期中期目標期間においては、我が国唯一の国立農学系単科大学として、「グローバル社会の要請に即した農学系人材を育成すること」を目指し、以下の取組を重点的に推進した。

- ・ 欧米水準の教育課程の構築
- ・ 世界トップレベル大学等との国際共同研究及び教育交流
- ・ 国際安全衛生基準適応の実習環境による人材育成
- ・ 企業等社会のニーズに即した共同研究・人材育成

畜産学研究科は、獣医・農畜産融合の教育研究体制を構築し、農学分野が直面する課題解決に資する人材育成を目的として平成30年度に組織改編を行い、畜産科学専攻（博士前期・後期）、獣医学専攻（博士課程）の2専攻体制となっている。

畜産科学専攻（博士前期課程）においては、自身の専門分野に加えて隣接他分野の知識を有する視野の広い人材を育成するため、所属コースに加えて複数のコースから履修する体系的かつ広範なコースワークが実施可能な教育課程を編成している。

畜産科学専攻（博士後期課程）及び獣医学専攻（博士課程）においては、各専攻の教員が他専攻の研究指導を担当する分野横断型の体制により複合的な教育研究を実施し、農学の複雑な課題に対応できる研究者・高度専門人材を育成している。

また、企業等に求められている国際安全衛生基準の取得・維持に対応できる人材を育成するため、博士前期・後期課程を通じて、国際安全衛生基準適応の実習施設群を活用し、畜産衛生学位プログラムにより国際水準の食の安全確保に関する教育研究を実践している。

## (2) 「教育の水準」の分析

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

#### <必須記載項目1 学位授与方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 0502-i1-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目2 教育課程方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 0502-i2-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料  
（別添資料 0502-i3-1～3）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料  
（別添資料 0502-i3-4～5）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 0502-i3-6～9）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成30年度に、特定分野だけの専門性では解決が難しい課題に対し、獣医学・農畜産学の幅広い知識と国際的な視点を持って地球規模課題等を解決できる人材を育成するため、これまでの大学院畜産学研究科修士課程・博士前期課程の4専攻を、獣医学と農畜産学を融合した「畜産科学専攻」の1専攻に改組するとともに、岩手大学大学院連合農学研究科及び岐阜大学大学院連合獣医学研究科の2

つの連合大学院を離脱して、博士後期課程1専攻を「畜産科学専攻」と「獣医学専攻」の2専攻を独自に設置した。 [3.1] (別添資料 0502-i3-10)

- 平成30年度に、農作物・食品等の国境を超えた流通拡大を背景として企業等に求められている国際安全基準の取得・維持に対応できる人材を育成するため、国際安全衛生教育を強化し、「食の安全確保」に関する高度な専門教育を所属するカリキュラムコースに限定されることなく、同研究科の全ての学生が履修可能な畜産衛生学位プログラムを創設した。同プログラムでは、家畜及び食品衛生学に基づく基礎的な能力・知識に加えて、HACCP 資格科目群、6次産業化科目群により製造・加工現場や企業経営・管理に求められる法規・諸制度等を修得することができる [3.1] (別添資料 0502-i3-11)

#### <必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料  
(別添資料 0502-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料  
(別添資料 0502-i4-2)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数  
(別添資料 0502-i4-3)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料  
(別添資料 0502-i4-4)
- ・ 指標番号5、9～10 (データ分析集)

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 独立行政法人国際協力機構 (JICA) との連携事業として実施する、帯広-JICA 協力隊連携事業を活用して獣医・畜産分野における国際協力経験機会を通じたグローバル人材を育成するため、2年間の長期ボランティアに3名の大学院生を派遣した。長期履修制度の活用等により、退学・休学することなく隊員として活動することができることに加えて、派遣実績を授業科目「海外フィールドワークⅡ」の単位認定とすることが可能な体制とした。また、1か月程度の短期ボランティアに2名の大学院生を派遣し、授業科目「海外フィールドワークⅠ」として単位取得が可能な体制としている。 [4.1] (別添資料 0502-i4-5)

- 平成 28 年度に農学系大学としては国内で初めて、原虫病研究センターと動物食品検査診断センターが試験所能力を国際的に証明する国際標準規格 IS017025 を取得した。畜産フィールド科学センターでは、平成 28 年度に「搾乳施設」の国際安全衛生認証 IS022000 を新たに取得し、さらに平成 31 年度は「牛舎」の IS022000 認証を取得した。また、平成 26 年 3 月に取得済みの「乳製品工場」の国際安全衛生認証 (FSSC2200) は、毎年度に内部監査を実施するとともに平成 29 年度に審査更新を実施した。国際認証取得施設を 1 施設から 5 施設に大幅に増加させたことで、国際基準の教育環境が飛躍的に充実した。[4. 8] (別添資料 0501-i4-9)

### <必須記載項目 5 履修指導、支援>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料 (別添資料 0502-i5-1)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料 (別添資料 0502-i5-2)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料 (別添資料 0502-i5-3)
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料 (別添資料 0502-i5-4)

#### 【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成 30 年度、畜産科学専攻博士後期課程及び獣医学専攻博士後期課程における国際学会発表に対する特別支援制度を新設し、大学院生の積極的な国際学会での発表を支援した。[5. 1] (別添資料 0502-i5-5)
- 平成 28 年度から毎年度、関連する FD 研修会やワークショップを開催した。平成 29 年度には特別修学支援室を設置し、特別な支援を要する学生への支援体制を強化した。障がいの種類に応じた教育方法として、集団での受講が困難な学生に対する夜間補講やビデオ講義の活用、定期試験の別室受験やレポート提出への変更等の方策を実施した。また、新規の施設整備は、ユニバーサルデザイン整備計画に基づき、身障者対応多目的トイレ、点字ブロック、手すり等を設置する方針とした。平成 31 年度には、増加する女子学生の特別修学支援申請に対応するため女性カウンセラーの配置時間を週 1 回から 2 回へと倍増させた。 [5. 1] (別添資料 0501-i5-6)

## <必須記載項目6 成績評価>

### 【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 0502-i6-1）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 0502-i6-2）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 0502-i6-3～6）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 大学院畜産学研究科の全ての専攻において、各学年の進級要件として進捗状況審査会と進級試験の実施を必須として成績評価と進級を厳格化している  
[6.1]（別添資料 0502-i6-7）

## <必須記載項目7 卒業（修了）判定>

### 【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 0502-i7-1）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料  
（別添資料 0502-i7-2）
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料 0502-i7-3～6）
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（別添資料 0502-i7-2～6）（再掲）
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料 0502-i7-7～8）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

## <必須記載項目8 学生の受入>

### 【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 0502-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 0502-i8-2）

- ・ 指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 平成30年度4月入学者から、本学の大学院博士前期課程修了見込みの大学院生または共同獣医学課程卒業見込みの学部生を対象とし、本学大学院博士後期課程に進学する意欲がある者で、日本学術振興会特別研究員に申請した者、あるいは国費外国人留学生で、進学時に国費期間延長できなかった者に対して、奨学金による支援と授業料の全額免除を実施する制度を新設し、博士課程への進学支援を行った。同支援制度を活用した入学者数は、平成30年度入学者3名、令和元年度入学者2名で、令和2年3月末時点で令和2年度入学予定4名を採用した。

[8.1]（別添資料 0502-i8-3）

**<選択記載項目A 教育の国際性>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数  
（別添資料 0502-iA-1）
- ・ 指標番号 3、5（データ分析集）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 平成28年度大学院全科目について英語シラバスを作成した。また、留学生への対応のため、平成30年度までに全ての大学院科目について英語対応化を行ない、実施した。[A.1]（別添資料 0501-iA-2）
- コーネル大学及びウィスコンシン大学から4年間で延べ58名の外国人教員を招聘し、食品科学分野、予防獣医学分野等の特別講義・ワークショップを39回実施し、獣医・農畜産融合の教育研究交流を推進した。[A.1]（別添資料 0501-iA-3）

**<選択記載項目B 地域連携による教育活動>**

**【基本的な記載事項】**

（特になし）



**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 大学院畜産学研究科の各専攻において選出された共同研究推進教員と産学連携センターのコーディネーターの連携により共同研究を推進するとともに、大学院学生の共同研究参加を促進した結果、博士前期課程において共同研究に基づく研究テーマを選択する学生の比率が、平成28年度の28.0%から平成29年度には40.2%に向上し、平成30年度以降も、42.0%、41.3%で推移し、40%以上を維持している。[B.1] (別添資料：0502-iB-1)

**<選択記載項目C 教育の質の保証・向上>**

**【基本的な記載事項】**

(特になし)

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- ディプロマ・ポリシーに掲げる能力・資質の修得状況等を適切に評価するため、平成28年度にアセスメント・ポリシーを策定するとともに、大学教育センターを中心に同ポリシーに基づき、自己評価・点検を実施し、各種会議で改善策を検討する内部質保証体制を構築し、PDCAサイクルを機能させた。[C.2] (別添資料：0502-iC-1)

**<選択記載項目D 技術者教育の推進>**

**【基本的な記載事項】**

(特になし)

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 大学院改組前の畜産衛生学専攻博士前期課程における食品安全マネジメントシステム教育プログラム及びその実績を活用して学位プログラムへと発展させた「畜産衛生学位プログラム」における食品安全マネジメントシステムに関する専門教育を通じて、HACCPシステム構築専門家資格を付与した[D.1] (別添資料：0502-iD-1)

<選択記載項目E リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料 0502-iE-1）
- ・ 指標番号 2、4（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 社会人学び直し事業として、産業動物臨床獣医師の技術向上に向けた「生産獣医療技術研修」、「牛人工授精師技術研修」を継続的に実施するほか、企業経営や、地域の経済発展に寄与するリーダーシップを発揮する人材を育成することを目的とした「フードバレーとかち人材育成事業」を第2期中期目標期間から継続して実施した。第3期中期目標期間に新たに、「HACCP システム構築研修」、「農業共生圏高度専門家育成事業」を実施しており、令和2年度から新たに「酪農後継者技術研修プログラム」、「馬生産プログラム」を開講することを決定し、第2期中期目標期間の3件から7件に大幅に拡充して、農業関連団体、食品関連企業等の社会人育成に貢献した。 [E.1]（別添資料 0501-iE-2）

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### <必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 0502-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 0502-ii1-2）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 畜産学研究科所属学生の学会等の主な受賞実績は下表「大学院生の主な受賞状況」のとおりである毎年継続的に受賞している。[1.0]

#### 【大学院生の主な受賞状況】

平成28年度	4件	（修士課程3名、博士後期課程1名）
平成29年度	2件	（修士課程2名）
平成30年度	4件	（修士課程4名）
平成31年度	4件	（博士前期4名）

（出典：総務課、学生支援課）

### <必須記載項目2 就職、進学>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 主な産業別就職先は、修士課程及び博士前期課程は食料品・飼料製造業（25%）等の農学の専門性を生かした職種が中心となっている。博士後期課程は全員が教育・研究職等として活躍している。また、修了生アンケートにおいては、84.3%の卒業生が現在の進路は希望した進路であり、同数が進路に満足していると回答しており、引き続き高い状況を維持している。[2.1]（別添資料 0502-ii2-1、2）

### <選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 0501-iiA-1）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 平成28～30年度の修了生を対象に、入学した時点と比べた能力・知識に関する5段階評定のアンケートを実施した結果、「一般的な教養」、「分析力や問題解決能力」「専門分野や専攻の知識」、「プレゼンテーション能力」については、8割以上の大学院学生が「大きく増えた」あるいは「増えた」と回答した。そのうち、「専門分野や専攻の知識」は特に割合が高く97.6%であった。[A.1]

**<選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 0502-iiB-1）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 平成29年度に同窓会報紙送付時に同封しアンケートを実施した結果、「実験・実習」、「研究（論文作成）指導」の満足度が高く、「非常に満足」、「概ね満足」との回答が8割以上となっており、教員に関する満足度調査（教育に対する意欲、教育方法・技術、学生とのコミュニケーション）では、7割以上が肯定的な回答をしている。[B.1]（別添資料 0502-iiB-2）

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※  部分の指標（指標番号 8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※  部分の指標（指標 11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。